# 応援の価値とはなにか。

人はなぜ何かを、誰かを、応援するのでしょうか。

少し調べてみると、そもそも「応」という漢字には「こたえる、相手に合わせる」という意味があり、「援」には「手を引っ張って助ける」という意味があるそうです。頑張ってほしい、相手の力になりたいという心理的要素、それを声や拍手などで外に表現する行動的要素、そして応援者とその対象者との間に生まれる信頼関係や絆といった社会的要素が揃ったときに、「応援」は成立しその効力を発生させるそうです。これらにはヒトが進化していく中で脳のバグや社会性が影響しているそうです。

いずれにしても、自分以外の何かを応援することで、自分自身が満たされたり、存在が保たれたりすることが本質的な意義である中で、その影響力、生み出す価値は物質的なものからエモーショナルなものまで広い範囲に及びます。物事がソーシャルな影響によって価値の拡大と転換がされやすい現代においては、推し活しかり人々の生活の中に深く入りこみ多くの力を与えてくれます。



## 強いから応援されるのか。<br>応援されるから強くなるのか。

この永遠と思えたテーマに突如答えがでたのは昨シーズン。現時点でのレイエスの回答は後者です。レイエスのトップチームは社会人サッカー、プロではない。セミプロでもない。つまりプレーすることでお金をもらっていない。周りを見渡せば、日頃の対戦相手でも勝利給や選手給といった待遇を用意することでチームを強化していくクラブも珍しくなくなりました。昨シーズン我々は5位でリーグ戦をフィニッシュしましたが、そういった強化方針はリーグ順位表にも反映されました。プロの世界でも、チームの人件費（選手・スタッフ）と勝ち点の相関性はデータ上で示されており、リーグレベルに比例してその度合いは高くなっていきます。



そんな中で、上記のようにある意味生物としての根本的な欲求に近い、「応援」によってピッチレベルでのパフォーマンス、選手のモチベーションが大きく影響を受け、奇跡が引き起こされる瞬間を幾つも目の当たりにし、先の回答にたどり着くことができました。もちろん、選手や応援してくださる方々の愛着に甘えるつもりはありませんが、それを醸成することこそ誇り高く至難を極める果てしない挑戦であり、ただし確実にクラブを強くする力であると確信しています。「愛着に勝る戦術は無し」これが我々の強化方針です。

## 非凡を願うことは平凡である。



シェイクスピアの言葉とされています。優れた能力を手にすること、少し解釈を広げて特別な存在として扱われたいと望むことは、人間としては自然なことであり、憚る必要のないことであると思います。誰かに応援されたいと願うことも、人がベーシックに持ち合わせた感情なのだと思います。そこに居合わせるひとりひとりが何かに捉われることなく、感情をオープンにして何かを表現できる環境、何かに没頭できる環境、感情の浮き沈みを共有できる環境、やはり応援させる側もする側も、どれだけエモーショナルにいられるかが、我々の目指すゲームの物差しであり、一生数値化することはできない（であろう）チームの勝利との相関性を示していくことが、まさに“more than FOOTBALL”の哲学の体現に繋がるのかもしれません。そんな特別な世界観の体現を目指すことも、平凡な欲求であると捉えて、憚らずに発信してくべきであると考えています。

そしてやはり、人が無条件に見返りを求めずに応援するのは“家族”です。このクラブが文字通りファミリーになること。それが我々のゴールです。

東急Sレイエス FC
代表　阪本 洋平